

白井市通学区域審議会 会議録

日 時	平成24年3月22日（木）午後3時00分から4時30分まで
場 所	白井市役所 4階 第2会議室
出席者	國島千恵子会長 竹内正一委員（会長代理） 岡野ユカリ委員 鈴木由梨香委員 伊藤久男委員 松井利一委員 加藤秀明委員 山本香緒利委員 中村順子委員 米山一幸教育長 事務局
1 開会	
2 会長あいさつ	
3 議題	
(1) 児童生徒数の推計と通学区域について	
(2) その他	
	<p>（事務局より、児童生徒数の推計について学校ごとに説明。 通学区域の線引きについては、ニュータウン事業の開始より学区の変遷を中心に説明。）</p>
会長	<p>資料によると、白井第三小の教室数が不足することが予測されているようだが。</p>
事務局	<p>第三小学区は南園地区においてミニ開発が数か所行われているが、件数が読めないため、本資料の推計には社会増を見込んでいない。 実際には児童数が予想より増えるかもしれないが、学区の変更がよいのか、増築で対応するのが望ましいのか意見を伺いたい。</p>
委員	<p>木下街道の南側を池の上小学区にしてはどうか。</p>
委員	<p>木下街道より南側は、梨畑や工場はあるが、住居は少ないかもしれない。 学区変更しても児童数の異動は少ないかもしれない。</p>
委員	<p>第三小学区の場合は、中学生は自転車通学で大山口中へ通っているが、細い道路も多く、自転車通学者が増えるのは安全面で望ましくないのではないか。</p>

委員

南園地区の一部を清水口小学区に変更したとしても、近くに第三小学校があるので保護者の理解を得られないかもしれない。

委員

不足が1～2クラス程度なら、第三小は今後耐震改修を予定しているし、増築で対応してもよいのではないか。

委員

学区を考慮して家を購入する人が多数だと思うので、通学路や通学方法を考えると、学区変更ではなく増築の方が保護者の理解が得られると思う。

委員

南園地区は一般住宅の隣に畑がある状況だが、今後畑の維持管理ができなくなり、所有者が宅地にしてしまうかもしれない。

もっと住宅が増えるのではないか。

委員

学校は近いほうがよいと思う。

学校から離れていると、雨の日は保護者が車で送ってきてしまうので、正門が車でいっぱいになってしまう。

委員

入居者は学校から近いことも考えて決めていると思うので、学区を変更するよりは増築の方が望ましい。

教育長

ミニ開発については規模や開発時期等想定が難しいが、いずれにしても第三小は増加傾向にある。

多数の委員さんのご意見のとおり、教室の増築を検討していきたい。

教育長

個別案件になるが、調整区域では、学区がいくつかに分かれている地区もあり、仲の良い友達が道路一本で別々の学校に行かなければならないこともある。

自治会は違っても、道路一本挟んだ距離でお付き合いがある、そうした地域性を考慮するべきか、あるいは道路で分けていいのか。

学区の線引きについて何を優先して考えればよいのか、委員さんのご意見を伺いたい。

委員

人付き合いを優先すると、学区があいまいになり混乱するのではないか。
道路による線引きは、ある程度必要と思う。

委員

道路での線引きは必要だが、人付き合い等の地域性は個別案件として対応していけばよいのではないか。

会長

ご意見をまとめると、線引きは自治会や道路を優先し、個々の事情に応じて対応していくことでよいか。

教育長

委員さんのご意見のとおり、この地域はこの学区であるとお示しし、特殊な事情については個別に対応していきたい。

その他

・指定校変更許可基準で部活動を理由とする変更は他校への生徒の流出にならないか

との意見が委員よりあった。

事務局より、大山口小学区から七次台小学区への学区変更に伴う安全面の整備の進捗状況を説明。

(閉会)